



1. はじめに

冬休みも終わり、本年度最後の学期も中盤に差し掛かりました。「終わり良ければ全て良し」とはよく言われますが、これまでの努力が無駄にならないように気を引き締めて学校生活に取り組んで欲しいと思います。特に3年生は卒業を前にして落ち着かない日々が続くと思いますが、二度と来ない高校生活の有終の美が飾れるように、積極的に活動していきましょう。



2. 日常の中で思ったこと

養護教諭 井原 直美

三学期が始まり一ヶ月が過ぎようとしています。三学期は一年のまとめの学期であり、次の学年に向けての準備の時期でもあります。この一年積み上げてきたことやがんばったことの成果が出てくる時期です。みなさんはどんなことに取り組みましたか？部活や勉強資格試験に取り組み、自分と向き合う時間をもち充実した時間を過ごすことができた人もいます。また、あまり充実感を味わえなかった人もいるかもしれません。それはなぜか、どうしたら良かったか、これからどうしていきたいか、この一年を振り返ってみると気づくことがたくさんあります。そして、今からでも自分にできることがたくさんあります。

最近、学校生活の中で気持ちがいいなと感じることは、廊下ですれ違う時に自分から挨拶をする姿が見られるようになったことです。部活動をしている生徒は以前から気持ちのよい挨拶をしています。それは日々の活動の中で身につけていることの一つであると思います。相手に気づいたら自分から挨拶をするのが礼儀であるということが、顧問の先生や先輩の指導を通して日常の中で身につけているからだと思います。そして今はそんな良い姿がほんの少しずつではあるけれど、どの学年にも広が

ってきているように感じます。毎朝の挨拶がこんなふうに校内に広がってきていることを感じています。

もう一つ関連して良くなっていることは、保健室に入ってくる時に「失礼します。」と挨拶してから「熱を測らせてください。」「湿布をください。」と言うように、体調が悪くても礼儀正しく言葉づかいに気をつけて利用する人がいることです。当たり前のことですが、できていなかったことでした。今もできていない人もいますが、こうして日常の中で気持ちの良い利用の仕方ができるようになっていることも成長したことのひとつだと感じています。それは、言葉づかいをその都度、先生方が指導してくださっているからです。そして、その指導に対して素直な気持ちで指導を受け入れる心を持っているからです。みんな素直な心を自分の中に持っています。

挨拶をすること、言葉づかいに気をつけること、素直な気持ちで自分を改めようとする心を持つこと、これは社会に出てからもとても大事なことです。人との関わりに中でも大事な礼儀です。しかしながら時々、指導に対して一回で聞くことができない場面を見ると、とても残念に思います。「でも・・・」「だって・・・」「あの人も・・・」と自分に言い訳をせずに、今の行いはどうであったか自分を振り返ってみることで、素直な心で「はい。」と返事をして改めようとする心を持つことで、今よりももっと成長することができます。自分のことを注意してくれる人は、親や家族以外にあまり多くはいません。自分に足りないところを指摘してくれる人は大人になってもそうたくさん出会うことはできません。自分のことを悪く言うを受け止めるのではなく、自分のできていないことを教えてくれたのです。自分は今、高校生であること、教えてもらう立場であることをはき違えないようにして、素直さを持ってさらに心を成長させてほしいと思います。

【裏へ続きます】

高校生は心も体も大きく成長する時期です。多くのことを吸収できます。たくさんの可能性を持っています。伸びる力を持っています。勉強、部活動で目標を持つこと、自分のまわりの人を大事にすること、挨拶、言葉づかい、素直な心を持つこと、どんなことでもいいと思います。今から自分にできることを見つけて自分をさらに成長させてほしいと思います。自分の受け止め方や心がけ次第で自分が大きく変わります。その気になった時から始まりです。挨拶、言葉づかいなどこの一年の成長を感じる中で思ったことです。

3. 「ニュージーランド」あれこれ

みなさんはニュージーランドと聞くと、何をイメージしますか。「羊」やラグビーの代表チーム「オール・ブラックス」、あるいは「キウイ」でしょうか。映画「ロード・オブ・ザ・リング」を思い浮かべる人もいるかも知れません。「バンジージャンプ」でも有名ですね。私はニュージーランドに6ヵ月間滞在していたことがあります（ずっとホームステイでした）、大好きな国のうちのひとつですので、今回はこの国の文化について紹介します。

1) 3つの「公用語」

公用語とは、「国内で数種の言語が用いられている国家で、その国の公の目的、特に政府の媒体として用いられる言語」のことです【広辞苑】。アルゼンチンの公用語は「スペイン語」、ブラジルの公用語は「ポルトガル語」です。では、ニュージーランドの公用語は…？「英語」を直ぐに思い浮かべる人が多いと思います。もちろん正解なのですが、実はもうふたつ、公用語があります。ひとつ目は「マオリ語」です。この国には「マオリ族」という先住民族がいます（全人口約450万人のうち15%



程度。写真は民族衣装姿のマオリ族)。彼らの言語は公用語であり、ニュージーランド国歌は、マオリ語 → 英語 の順

番で歌われます（ちなみに私はマオリ語と英語、どちらも暗記して歌うことができます）。では、3つ目の公用語は…？それは、「ニュージーランド手話」です。スウェーデンも「手話」を公用語としていますが、世界で初めて「手話」を公用語と認定したのはニュージーランドです。女性が参政権を獲得したのもこの国が世界初であることと併せて考えると、ニュージーランドがどのような国家であるか想像できると思います。

2) 3つの「キウイ(kiwi)」

2年生の英語の授業では紹介しましたが、ニュージーランドには3種類の「キウイ」があり、単にキウイと言っただけでは、「どのキウイのこと？」と質問されてしまいます。

キウイ①：果物。原産は中国ですが、ニュージーランド産のものが有名です。果実が緑色のものと、最近登場した黄色のものがあり、



後者は、大変甘く栄養豊富なので人気があります（値段は少し高いです）。現地の

スーパーでは専用スプーン付きで売られています。

キウイ②：鳥。ニュージーランドの国鳥で、コインの絵柄にも使われています。飛ぶことができず、夜行性で目も悪く、長いくちばしで地面をつついてミミズなどを食べていて、お世辞にも力強い鳥とは言えません。「キィーウィ！」と甲高い声で鳴くのでこの名が付けました

（果物のキウイは、外観がこの鳥に似ているのでそう呼ばれるようになりました）。長らく天敵がいなかった環境で生活していたため、乱獲等で数が激減し、手厚い保護を受けていますが、絶滅の危機に瀕（ひん）しています。キウイの他にもニュージーランドにはユニークな鳥がたくさんいます。



「ニュージーランド」あれこれ

は次号に続きます

(文責：古田千博)